

# 秀峰生2人 模擬国連へ

## 中沢冬芽君 伊藤河間君 高校生大会に初出場

松本秀峰中等教育学校（松本市埋橋2）の5年生の中沢冬芽君（17）と松本市惣社と伊藤河間君（17）が、14、15日、東京都の国連大学で開かれる「第9回全日本高校模擬国連大会」に初出場する。書類選考で選ばれた全国の高校生が各国の大使となって、国際問題について英語と日本語で議論する大会で、今年「移民」が議題となる。2人はアフリカ・アルジェリアの大使として自分たちが考えた政策を訴える。

（片岡 望）

（第3種郵便物認可）

大会は、議題について、2人一組で担当国に有益な政策をスピーチし、他国の大使役の高校生と議論し、交渉する力を競う。初挑戦だ

つた昨年は書類選考を通過できなかったが、今年全国203の応募チームから出場80チームに選ばれた。

欧州に近くさまざまな問題を抱えるとして、アルジェリアを選び、インターネットで国連の過去の決議を見たり、外務省の公表資料を見たりして情報収集

した。有能な研究者や技術者が他国へ移住してしまう「頭脳流出」を防ぐ政策を発表する考えで、先進国で経験を積んだ人材が国内に戻って活躍する「頭脳循環」の仕組みづくりを訴える。

大会は、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（東京都）などが主催する。上位6チームは、来年5月に米国で開かれる国際

大会に出場する。外交官を目指す中沢君は「必ず将来に役立つは、参加者から刺激を」と意気込み、伊藤君は「論理的に考える力を身に付ける良い機会。参加者から刺激を」と話している。



本番に向けて準備する中沢君(右)と伊藤君